

# 文化財 やまと

大和町文化財保護協会発行



七 鈴 五 獸 鏡

## 創立四〇周年に向けて

会 長 佐 藤 光 一

中神路白山神社では平成一六  
年に二九年ぶりに伊勢神楽と芸  
神楽（げいかぐら）が奉納され  
た。 ○年（一九七五）を最後に、例  
祭では神事だけが執り行われ  
てきた。

同神社には享和二年（一八〇  
二）の記録のある「嘉喜踊り」  
と、昭和八年（一九三三）に八  
幡町吉田から習った「伊勢神楽」  
が伝わっている。



平成16年例祭

平成一六六年に「小人数の伊勢  
神楽だけでも奉納しよう」と衆  
議一決して伊勢神楽と芸神楽が  
奉納された。  
翌十七年に「中神路伝統文化  
保存会」が結成され、以来三年  
間は毎年奉納されたが、毎年で  
は負担が大きすぎると言う理由  
から、二年ごとに奉納すること  
にしたとのこと。今年がその年  
に当り、九月二三日奉納を予定  
しているとのことである。  
その土地に住む者はその土地  
の伝統を守るのが当然の務めで  
あるという価値観が何の疑いも  
なく受け容れられていた頃とは  
違い、価値観が多様化し、個人



熱心に練習に取り組む

の考えが優先されるこの頃、こ  
のような伝統文化を継承してゆ  
くことは並大抵のことではな  
い。そんな中で、中神路白山神  
社の氏子中では奉納が行われな  
い年も、例外なく、地域の小中  
学生や会員が、毎月一回ないし  
二回、舞・笛・唄・太鼓の練習  
に励んでおり、師匠の皆さんが  
骨身を惜しまず、気長に愛情を  
込めて指導されている姿には心  
を打たれるものがある。地域ぐ  
るみ心を合わせ地域の文化を継  
承発展させようとするところそ  
私たちの目指すものである。

大和町文化財保護協会は、平  
成二三年に創立四〇周年を迎え  
る。諸先輩のご努力に感謝しな  
がら、有意義な記念事業を行っ  
べく、現在事業部を中心に記念  
事業を策定しているところだ。  
目指すところは、私たちが会員だ  
けでなく、町民の皆さんが大和  
町の文化財、ひいては文化財そ  
のものへの理解と関心を深め、  
文化財を通して過去と出会い、  
大和町のよさを肌で感じながら  
未来への展望が持てるようにす  
ることを考え方の中心に据えて  
取り組みたいと思う。  
まず前段として、会員全員で  
町内の文化財の所在を確認し、  
①誰にでもその場所や内容がよ  
く分かるか、②案内板などが良  
好な状態であるか、③そこに達  
する経路に問題はないか等々を  
調査し、問題がある場合は、道  
筋を立てて地域の人々、管理者  
方などとよく話し合っって、本会  
として出来る限りの協力をし、  
地域の皆さんと共に、文化財の  
保護に努め、身近に活用する手  
立の確立を目指しながら、四〇  
周年記念事業への取り組みを進  
めて行きたいと思う。



# 山陰への旅に友を思う

本川 喜代士

今年1月23日千葉県立済生会習志野病院で私の親友Sが大腸癌の手術を受け12時間の苦闘の末見事に成功、思いも懸けない朗報となりました。思えば一昨年12月3日同病院で開腹手術を行い、全摘出できずに化学療法に頼ったのです。今までの例に従い悪い場合を想定、ここ数年

も東京往復を繰り返し、入院見舞いと激励に勤めました。そんな中で昨年の山陰旅行、精神的に追い詰められていた私には、旅行記が纏めきれず、初めて締め切りに間に合いませんでした。年越しの回想記になってしまいました。そのつもりで読んで頂きたいと思います。

昨年の山陰への旅は私にとっ

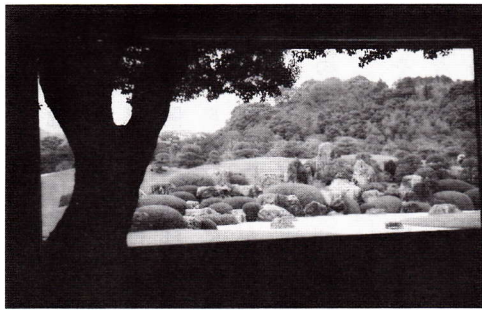
て、過去と未来への想いが交錯する思い出深い旅となりました。まず4年前の能登への旅を思い出して下さい。能登へ行った事は覚えて居てもあの時のガイドさんが色々なランキングを教えてくれた事を、知っている方は少ないでしょう。昨年夏にオープンした奥飛騨トンネルが高速道2番目の長さになるとか、東海北陸道の完成によって、この近辺の観光ルートの展開は一変するだろうと、あの時から期待されて居りました。一番美しい農村風景は何県の何処か?、外国人推薦の日本庭園ベスト1は?…それが足立美術館でした。私が待ちに待った3年振りの33人の旅となりました。

て、過去と未来への想いが交錯する思い出深い旅となりました。まず4年前の能登への旅を思い出して下さい。能登へ行った事は覚えて居てもあの時のガイドさんが色々なランキングを教えてくれた事を、知っている方は少ないでしょう。昨年夏にオープンした奥飛騨トンネルが高速道2番目の長さになるとか、東海北陸道の完成によって、この近辺の観光ルートの展開は一変するだろうと、あの時から期待されて居りました。一番美しい農村風景は何県の何処か?、外国人推薦の日本庭園ベスト1は?…それが足立美術館でした。私が待ちに待った3年振りの33人の旅となりました。

らしい庭園でした。我々が幼少の頃親しんだ「キングダーブック」の童画だとか、人間が創り出した美術、大観だとか平山郁夫の絵画にしても、申し訳ないが自然の美しさには敵わないと思えました。2003年から始まった庭園ベスト1は、5年も続いているという事、これからも何年続くのでしょうか?

の代表で、言い換えると岡倉天心は文化財保護の礎になった人、大観は日本画、清輝は洋画発展の元になった人と考えれば好いでしょう。横山大観は天心の精神を最も強く受け継いだ人で明治大正昭和の日本画の歴史を代表する人ともいえます。天心が東京美術学校を辞め五浦に移る決心をした時、下村観山、菱田春草等と共に率先して都落ちし、背水の陣で絵画制作に臨む姿の写真が、五浦美術館、足立美術館に共に飾られていたのが印象的です。よく作家が「かみずめ」と称してホテルの一室で仕事をさせられますが、それと同じ感じの悲壮感漂う写真でした。殊に六角堂は海に面して断崖絶壁に建てられ、天心が思索と読書に取り組んだとか、私はふと数年前の新潟の豪商伊藤家の北方文化博物館の三角形の「三楽亭」を思い出しました。後者は贅を尽くした栄耀豪華の、前者は改革精神の気概を示すイメージ発信の建物でした。上野の不忍池の畔に住んで居て、富士山の絵を得意としお酒の好きな画家、と言うのが私の抱いていた大観像でしたが、風貌とは裏腹に英語にも堪能で、気軽に海外に出掛け、外国の良さものを素直に取り入れたらしい、光を重視した印象派に似た蒙籠体という技法で色の明暗や光や空気表現を取り入れようとした富士は、眺める場所、観る時季、時間によって総て違う、何十枚もの睡蓮を画き分け、積葉や聖堂を定点描写したモノと共通する点です。足立美術館の作品の中では、大観初期の出世作「無我」、天真爛漫な童子に引き込まれました。後は「那智の滝」が違った意味で興味がありました。そして今回は展示されなかった「紅葉」や「夜桜」「生々流転」を是非拜見したいと思いました。





足立美術館庭園

まいりました。歩いたのは絵画館がほとんど、寛次郎や魯山人はさっと通り過ぎただけでした。「又のお出でをお待ちします」この言葉を、こちらから美術館に言い返してやりたい様な、そんな気分でした。本当に短い、あつという間の一時間半でした。

時間は午前中に戻ります。縁結びの神、出雲大社の参拝です。先ず圧倒的な規模の大きさに驚かされました。神楽殿の注連縄、長さ18.5m太さ8cm、重さ55kg。社殿の前の国旗の大きさは75畳分、竿の高さ47m、当日は殆ど無風で、はためいて居ませんでしたが、私はこんなに大きな日の丸を始めて見ました。荘厳な本殿に近ずくと境内に丸い模様が目につきました。1.35の太さを3本纏めた直径3mの円、四つか五つ階段の下にも隠れて居りました。出雲大社境内で数年前に発見されたようですが、「宇豆柱」と呼ばれるその跡から壮大な当時の模様がかいま見えて来ました。大社造りの本殿は国宝に指定されておりますが高さは24m、昔はその倍の48m

は有ったそうです。3本纏めた3mの柱が数本40m程に建てられ、本殿はその上に建てられました。そこから斜めに降りる階段が、約100m余、当時の権力者の力が如何に強大であったかが偲ばれました。古代歴史博物館で得た知識ですが、その中の神話シアターでは立体眼鏡を貸してくれ、万博のパピリオンに入った様な気分でした。ところが20分余の映像の大半は私の睡眠時間になってしまいました。今回は8日9日のざつと110kmの旅でしたが、私はその前に1日から6日までの習志野、五浦、水戸までの100kmの疲労が重なって居たのです。当初は文化財の一泊研修の取り止めを考えたのですが、敢えて参加に踏み切りました。旅の楽しさを追加し、それを病床の旧友に伝える事が良い励みになるとの思いで、私は彼と共に旅したつもりです。彼との思い出で一番印象深いのは、映画の楽しさを知った事でしょう。学生時代には、名画座とか映画祭などで毎日異なる昔の名画が安価で鑑賞でき、勉強なんかそっちのけで、有楽町

の読売ホール、池袋の人生座、銀座の並木座等に通り続け、映画論を闘わす事が、如何に楽しかった事か、思い出すだけでも懐かしい楽しい時代でした。少し勝手を思い入れですが、松江と聞いて私が先ず思い出すのは松本清張の「砂の器」です。真つ白い巡査服が素晴らしく印象的だった緒形拳、ハンセン病で故郷を追われる父子を好演した加藤嘉等が最初に目に浮かびますが、日本映画には珍しいラストに向けての音楽の盛り上がり素敵な作品でした。この映画では松江の近くの「亀嵩」(かめだけ)と言う地名が重要な導入部になるのです。「張込み」や「点と線」等、清張の作品は数多くありますが、作者自身が「原作を上回る作品」と認めたという野村芳太郎監督の代表作で1974年度のキネマ旬報ベスト2位の作品です。芥川也寸志作曲で「宿命」と題された時評判になった映画音楽のカセットを購入、飽きるほど聴いたものです。

松江城天主よりの眺望

たいという願いをお持ちでした。結果はどうなのか？皆さんの判断に任せます。足立美術館では、次から次へと、専ら庭園を主として窓の外を中心に見て回りました。茶の間風に眺めた部屋に床の間の壁をくり抜いた「生の掛け軸」がありました。そこには何時見ても外の人の姿が邪魔をして居りました。若いガードマンに聞いてみたのですが、それでもその日は普段より空いているとの事でした。気に入った場所にジツと佇んだり、何度か逆行して元の場所に戻ったりしている間に、見学時間が終了になってし

は有ったそうです。3本纏めた3mの柱が数本40m程に建てられ、本殿はその上に建てられました。そこから斜めに降りる階段が、約100m余、当時の権力者の力が如何に強大であったかが偲ばれました。古代歴史博物館で得た知識ですが、その中の神話シアターでは立体眼鏡を貸してくれ、万博のパピリオンに入った様な気分でした。ところが20分余の映像の大半は私の睡眠時間になってしまいました。今回は8日9日のざつと110km

の読売ホール、池袋の人生座、銀座の並木座等に通り続け、映画論を闘わす事が、如何に楽しかった事か、思い出すだけでも懐かしい楽しい時代でした。少し勝手を思い入れですが、松江と聞いて私が先ず思い出すのは松本清張の「砂の器」です。真つ白い巡査服が素晴らしく印象的だった緒形拳、ハンセン病で故郷を追われる父子を好演した加藤嘉等が最初に目に浮かびますが、日本映画には珍しいラストに向けての音楽の盛り上がり素敵な作品でした。この映画では松江の近くの「亀嵩」(かめだけ)と言う地名が重要な導入部になるのです。「張込み」や「点と線」等、清張の作品は数多くありますが、作者自身が「原作を上回る作品」と認めたという野村芳太郎監督の代表作で1974年度のキネマ旬報ベスト2位の作品です。芥川也寸志作曲で「宿命」と題された時評判になった映画音楽のカセットを購入、飽きるほど聴いたものです。

なる、桜前線が発表されますが、去年は最初から少し狂い気味で、高知等に交じって東京、名古屋が一番先に開花したと記憶しています。岐阜県ではその前線も複雑で標高差も加味して長良川沿いに北上、大和町は東北福島か、仙台当たりになるのでしょうか？ 4月上旬は桜満開の所、盛りを過ぎた場所、これから予想地、何処でも華やかな春の季節、レンギョウ、雪やなぎ、こぶし、木蓮それに菜の花など、何かが咲き誇って居りました。

この時の旅で一番印象に残っているのは、松江城の天守閣から見下ろした眺望です。



出雲大社と共に松江城でもボラ  
ンテアの説明員付き、真っ赤な  
制服の中年の女性の方で、上ま  
で登って来て説明してくれまし  
た。天守閣下の周囲は桜々で満  
開、遠く真南の角に鳥根県立  
美術館と湖上に「嫁が島」が望  
めました。その先に玉造温泉、  
我々の泊まる予定の「佳翠苑、  
皆美（みなみ）は良い旅館です  
よ」。それからの説明に私は痺れ  
ました。

「夕陽の眺めが美しいので、県  
立美術館は陽が沈んでから30分  
後に閉館します」との一言でし  
た。「もう一度是非来なけれ  
ば」その時強くそう思いました。

昨年春からのNHK連続TV  
小説で「だんだん」が放映さ  
れ、松江の夕日の美しさは何度  
も御覧になった事と思います。

私は是非本物を観たいのです！  
夜明けの太陽は太平洋、日没  
の美しさは日本海とよく言われ  
ますが、夕陽を見る場所をもう  
一ヶ所知っております。30年前

の能登半島一周旅行は、何年か  
前ご紹介しましたが、その数年  
前、電話の発達調査で盛岡にひ

と月近く出張させて貰った際、  
地元の人計らいで、東北一周  
をさせて頂き秋田に泊まった  
時、男鹿半島の突端、入道岬に  
夕日を見る丘が有名でした。当  
時は国道でも未だ全面舗装され  
て居らず、砂埃で真夏でも窓を  
開けて走れませんでした。何  
処へ行っても、海の水は透き通  
って居りました。

もう一つ、夕陽とは関係有り  
ませんが、隣の滋賀県、名神八  
日市インター近くの石塔寺から  
信楽に向かい数十分入った日野  
町のブルームの丘の「日没美術  
館」。人工照明の全くない安藤忠  
雄設計の赤い帽子の繪が何とも

魅力的な織田博喜美術館です。  
絵に興味のある方には一見の価  
値があります。

家に帰って調べたら、亀嵩は  
松江の二三ノ南でした。今は  
町村合併で陰が薄くなってしま  
ったかもしれませんが、天守閣  
から県立美術館、玉造温泉を望  
んだその先の山間部に「砂の器」

記念碑が建っている筈です。も  
し再び訪れたとき、そこまでは  
行けるかどうか分かりません  
が、美術館から「嫁が島」を眺

めるのは、夕日ですから、西方  
浄土を遠く徳ぶ事にもなるので  
す。その時はどんな気持ちで望  
めるのでしょうか？

去年の墓碑銘にどうしても名  
前を記したい人が居ります、そ  
の人の名は、緒形拳。

「復讐するは我にあり」その  
他、NHK大河ドラマの数々、  
あの人の笑顔は何とも言えない  
魅力でした。最後のTVドラマ  
「風のガーデン」今でも私の  
目に焼き付いております。

一昨年担当の役員が変わり、  
研修部担当の方々が一昨春秋、  
昨年春とかなり熱心に取り組ま  
れましたが、この時の旅の葉、  
IT写真をふんだんに取り入れ  
た見事な物でした。その最後の  
ページ参加者名簿の欄、35名な  
のに当日朝になって2名の方が

不参加を余儀なくされました  
し、旅行から帰った翌日、お葬  
式で忙しかつた方も居られた様  
です。

旅行に参加できることが如何  
に幸せなことか！そして去年  
は、天候にも恵まれました。旅  
行の前後は思わしくない天気な

のに、旅行の二日間だけ文字ど  
うり快晴でした。これは出雲大  
社さんの御利益だったのでしょ  
うか？バスの中の最後の有  
代さんの挨拶はこの様な事を述  
べられたと記憶して居ります。

渡辺淳一さんの書物に「あき  
らめるのはまだ早い、ここまで  
来た最新医療」と題された3冊  
の本が最近出版されました。  
乳ガン、胃ガン、大

腸癌等の名医師との対談  
集。医療現場の最前線の  
目を見張るような日進月  
歩に驚かされます。宇野  
重吉、乙羽信子、小津安  
二郎、嘗てガンで精一杯  
生ききった人達ですが、  
最近ガンを克服して活  
躍している著名な方々  
が、数多く居られます。

「病は気からと申します  
」病に負けまいと思ふ意  
志の力がどれだけ強い薬  
になるか！私の旧友は、  
カラオケのセンチでし

た。驚いたことに、人工  
肛門を取り付けた身体  
で、以前吹き込んだ自分

の歌をダビング、カセットにし  
て皆に配りました。私のところ  
にも届いたその一番最初に入っ  
ている歌「いい日旅立ち」を聴  
きながら、こんな事を思います。  
「ガンはもう不治の病では無く  
なったのだろうか？」と。



足立美術館正門で



## 春の宿泊研修

# 徳島を訪ねて

有代真一

### いざ四国へ

大和の桜が一齐に咲き始めた四月九日早朝、私たち一行二三名は四国に向けて出発した。晴天続きの暖かい日であった。

四国研修は会長さんによると本協会初めてのことだという。

四国は歴史・文化・自然において魅力一杯の地であるが、それが今日まで延び延びになっていったということは、やはり距離的に無理ではないかという懸念があったと思われる。しかし、今では徳島あたりまでは一泊で充分その範囲内になったということだ。

### 第一番札所から参拝

鳴門インターへは一二時頃着く。近くの食事処で昼食を済ませて、四国霊場第一番札所霊山寺に参拝する。



(第一番札所 霊山寺)

火災に遭い、今のは明治中期に



(第二番札所 極楽寺)

再建されたものという。落ち着いて小じんまりした伽藍、それに境内にある売店では巡礼用具等が売られており、また、白装束の遍路さんの姿も見えたりして、一番札所を膚で感じさせられた。

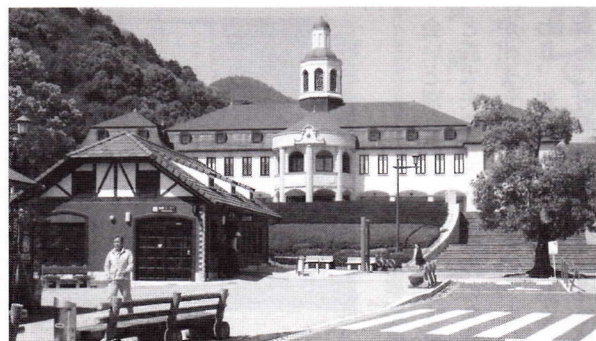
続いて、弘法大師の力で病弱な婦人を安産に導いたと伝えられる第二番札所の極楽寺、そして、良い水の少ないのを憂えて井戸を掘って、地域の人を救ったといわれる第一七番札所の井戸寺を参詣する。

これら古刹はいずれも弘法大師の遺跡といわれ、四国の八十八カ所巡礼として鎌倉時代に始まりました。江戸時代になって盛んになったといわれる。菅笠をかぶり、脚絆、甲掛けを着け、わらじをはき、詠歌を唱えて、途中の門戸に銭を乞うて巡った当時の巡礼姿が想い出され、何かしら郷愁にかられた。イスラムやインドにおける聖地巡礼と違い、暖かさや和やかさを感じたのは不思議である。

### ドイツ館で感銘

この日、最も感銘を受けたのはドイツ館であった。第一次世界大戦（大正初期）で連合国側についた日本は勝利し、俘虜（捕虜と同意）として連れてきたドイツ兵を二年余にわたって日本で収容した。その収容所の一つがここ徳島の板東村の板東俘虜収容所で、その近くに建てられたのがこの記念館である。

このことがあまり日本人に知られていないのが残念である。日本の学校教育でも教えられていなかったの無理からぬことだが、実は自分も以前に「バル



(ドイツ館全景)

思い出す。

収容所ではドイツ兵を俘虜でありながら自国でのように暮らせ、暮らしの糧として始めた音楽活動を見守り支援してきた。そして、その音楽を通して地元民との交流が深められていった。敵兵の俘虜をこのように人道的に扱った当時の日本人に、否、その所長以下担当の日本人兵士達とこの地元の人達に

トの楽園」という映画で始めてこのことを知り感動したことを



熱い思いを抱かざるを得ない。この精神がその後も生かされていけば、中国や世界各国から非難を浴びた「南京事件」（俘虜や住民達の大量虐殺）は起こさなかつたと悔やまれる。

縮小した収容所の全景模型や交流の中心となったペーローベン第九交響曲演奏会の動く人形が、言いしれぬ思いを語りかけてくるようだった。



(ドイツ館での説明)

### 阿波踊りを堪能

この日最後の見学場所、徳島市阿波おどり会館へは予定通り

午後4時ころ到着した。「踊る阿呆に見る阿呆」と、夏になると艶やかに市内が色取られる様子



(連と一緒に全員で阿波踊り)がテレビに映し出されるが、なかなか現場で見学し、雰囲気味わうことはできない。

踊りについての各種資料が展示されていたが、今回は踊りの解説付き実演を中心に見学した。

「手を上げ、足を運べば踊りになる」といわれる阿波踊りである。理屈では二拍子の実に簡単な踊りだが、どうもあの生氣ある踊りにならないようである。

これほど踊り手の工夫と個性を生かせる踊りはないようである。四十分のうち後半十分あまりは観光客も入り混じった踊りが練り広げられ、最後に本協会の栗飯原さんが最優秀賞、山内さんが優秀賞に選ばれ、レイをかけられ、免状をもらわれたことは思い出に花を添えてくださった。



(最優秀栗飯原さん、優秀の山内さんに阿波踊りの免状授与)

宿は眉山の麓のこの会館のすぐ近くで明るい内に到着できた。夕食時の懇親会は多くの方のど自慢曲を出され、楽しく盛り上げてくださった。

### 阿波藩の財源「藍」

二日目は藍染め工芸館が最初の見学場所であった。今まで染め物としての藍染めは各地で見ってきたが、ここではその種まきから施肥、手入れ、刈り取り等を経て染料作製の工程が示されており、こうした工房資料館は初めてで、勉強になった。当時、藍染め問屋は豪農家と同じで、大きな屋敷に住み、多くの人を雇って働かせ、大金を得ていたようであった。



(藍染め工芸館)

染色方法は伝統技法を守り、一つずつ丹念に仕上げているようだが、用途やデザインは時代

の変化に合わせて、ずいぶんと変わってきている。今も日本的な工芸品としての価値を守り続けている。

### 巡礼お鶴に目頭熱く

次に、阿波十郎兵衛屋敷では、地元保存会の手で上演される人形浄瑠璃を観劇した。傾城阿波の鳴門「巡礼歌の段」の名場面、



(人形浄瑠璃実演)

会いと別れの場面では、三味線と義太夫語りと人形操作の名技が相まって、母の情が切々と伝わり、知らぬ間に目頭が熱くなった。阿波徳島の民芸に膚で触れ、心で触れた思いであった。今日でも郷土伝統芸能として



受け継がれているようだが、貴重な無形重要文化財である。また、浄瑠璃で使われる木偶人形や衣装などの資料も見せてもらい、説明していただいた。

### 渦の道から観潮

徳島市から再び鳴門に戻り、鳴門海峡を見渡せる鳴門公園で昼食をし、十二時半ころの潮の干潮に合わせて、大鳴門橋の下に作られた「渦の道」の遊歩道を歩いた。

直下四十五mに見る速い白波と渦潮と藍色海峡が春の陽に輝いて眩しかった。手こぎの木船で気ままに渡れば楽しいだろうにとの思いも浮かんだ。

全長一六二九mという世界でも有数の吊り橋で、その橋下の橋桁の組み合わせを見て、改めてスケールの大きさ、技術の優秀さを思った。しかも橋桁の空間をぬって遊歩道が作られ、その途中何カ所かに床下眺望ガラスがはめてあり、四五m直下の潮流がのぞける工夫がこらしてあるのだ。たいした日本の橋梁技術とアイデアだ。



(大鳴門橋)

海上散歩を楽しんだ後多くの方はエスカレーターで鳴門山展望を楽しみました。私たち数人は売店でコーヒーを飲みながら、心で眺望を楽しんだ。

大鳴門橋を出たのは午後三時半を少し回ったころだったろうか。空は変わらず晴れ渡りどこまでも青く澄み渡っていた。

大和町から四国までの沿道に満開の桜の花が見られるという近年まれな風景も、この旅行に花を添えてくれた。

今回の四国徳島県の旅行で、また、古くて新しい日本に触れた思いがした。狭い日本だが、行くべき所、見るべきものがあったたくさんあることは嬉しい。それにはまず、健康。健康に気をつけ、動けるうちは各地を訪ねたいと思っている。



(第一番札所霊山寺で)

### 平成二〇年秋の日帰り研修

## 「奈良を訪ねて」

平成二〇年十一月六日(木) 参加者三九名

研修部長 河合利雄

今年の旅行の計画は、六〇回「ぼたん雪 水に映りて 水に正倉院展と興福寺特別公開を中 入る」。

観できないすぐれた国宝・文化財に接することができたらという願いからであった。

### 正倉院展の見学

まず入館を待つ長蛇の列に驚かされた。平日の平均一万四千人、多い日は二万三千人の入館者があるという奈良国立博物館での正倉院展。おかげさまで私たちは、団体ということで別の入り口から入館できたことは幸せであった。

### 西大寺の拝観

東大寺に対する西の大寺にふさわしい官大寺であった西大寺は、創建以来再三の災害、兵火にあつて多くの堂塔を失ってしまった。だが、現在も真言律宗総本山としての寺格を感じさせられ、残された伽藍や仏像に千三百年の歴史の推移が偲ばれる。特に、秘仏愛染明王像を拝観して、頭髮を立て両顔をかっと見開いたまなざし、怒りの顔に心は焼き付く迫力を感じた。境内の一隅で見つけた俳句

あつた。こんな人混みの中で、老人は無理だなど思っていたら、Kさんはある展示をじっと時間をかけて観ておられた。曰く、「新



聞などで、前にこれとこれだけ

はしっかりと観よう。全部観なくてもよいから」とのこと。なるほど、目標をはっきりして見学することは良いことだと感心させられた。

私の感じたこととしては一五〇年も伝わってきた宝物、「現状保存」、「美の回復」を目指しての苦心の程は察するに余りある。よくぞこれほど美しく、立派に保存されてきたものだと思わせられた。

歴史の長さで深さを感じさせられる宝物、国際色豊かな宝物が多かった。殊に印象に残った

宝物をあげると、平螺鈿背八角鏡（ひららでん・せはつかくきよう）（背面を螺鈿の唐花文様で飾った白銅製の鏡）や椰子の実（ヤシの殻を使った容器で、人の顔のような文様）、犀角魚形（サイの角で作った魚形の小さな腰飾り）。天平の人々のファッションやおもわずほほえまれるユーモアのみられる宝物の数々、まさに文化財の粋ここにありといった、見応えのある宝物ばかりであった。人の多さと共に圧倒される思いで会場を後

にした。

### 興福寺の見学

五重塔に代表される興福寺へはこれまで何度か訪れたことがある。特に今回は特別公開の期間にあるということから、計画に加えさせてもらった。駐車場の変更等で、拝観に十分な時間がとれなかったことが残念であり、心残りの方が多かったこととお詫びしたい。興福寺の宝物として親しみやすい物として、十大弟子や八部衆がある。とりわけ、八部衆の一つである阿修羅は格別である。

阿修羅像は仏教の布教を妨げる戦いの悪神から仏に帰依し、仏教の守護神となったと言われる。普通の仏と違って人間に近く近い顔立ちをした「親しみやすさ」を感じる三つの顔と、六本の腕、板金剛と呼ばれるサンダルを履き、洲浜座に立つ脚がらなっている。

脱乾漆造の傑作でもある。向かって左の顔は唇をかみ、眉はあがり、反抗的ともいえる少年の顔、右の顔は自分自身の内面を見つめるような目は守護神と

しての芯の強さ、「苦惱」をあらわし、正面の穏やかな合掌する姿、いつかどこかで見たなつかしい顔、いずれも対面する私たちにとまどいと、深く何かを思いつめさせる力をもって迫り、いつまでも離れがたい。また今度会おうと、別れを惜しませるものであった。

### 旅の終わりに

拝観した数々の文化財を思いおこし、心充たされた気持ち、明日を生きる活力としていきた。快い疲れとともに、帰途のバスに揺られていた。



（興福寺五重塔を背景に）

## 土松新逸先生とごぼう

佐藤 光一

一〇年間にわたり大和町文化財保護協会会長をお勤めになり、大和町の文化財の発掘・保存・活用に計り知れない貢献をされた土松新逸先生が、平成二〇年八月一日逝去された。もう半年で百歳という天寿を全うされてのご逝去なので、悲しみを抑えて衷心よりご冥福をお祈りする。

先生との出会いは昭和二三年（一九四八）郡上高校定時制に入学して以来だが、昭和四年（一九六九）、大和村史編集委員会が立ちあげられ、先生が事務局を担当されるようになってからは、親しく接していただいた。

平成五年四月、大和町史統編の編集委員会が設立されたからは、本当にいろいろとお世話になった。とくに私が本格的に古文書の勉強を始めた頃だったので、古文書解説については並々ならぬお世話になった。私の今日あるのは先生のお陰と思っている。

昭和五年六月、先生のご示唆を切っ掛けにして、東氏館跡庭園が発見され、同五年〜八八年の発掘調査では献身的な働きをされた。そして同六二年に国の名勝に指定されたのである。まさに「古今伝授の里」造りの最高の功業者である。それなのに、その後別人が大和町を「古今伝授の里」と呼称することを提案したため、先生のご功績は蔑ろにされたに等しかった。自己主張の少なかつた先生だが、内心寂しくお思いになっていたと思う。先生のご活躍を目の当たりにしている者として何時までも先生のご功績を忘れまい。



短歌

くるす桜

渡邊千恵

聳え立つへ神帰杉ゆさゆさと  
七百年の静かなる呼吸

天津風へ神迎杉揺るがして  
山城の跡 春ま近なり

勢みたる祭囃子の笛の音に  
獅子は目覚めるへ獅子寝床杉

篝火に言霊ほむら立ち来たり  
くくるす桜のシテ方の夢

年毎のへ七日祭の狩衣や  
日焼けの肌の汗の匂えり

いにしえ人

石神堯生

崖上に祠を設け城築く  
登攀を厭わぬいにしえ人は

粗餌に耐え雷雨の夜の凶刃に  
斃れし兵士幾そばかりぞ

戦陣の哀史を秘めたる城跡に  
音なうものは葉擦ればかりぞ

兵士を悼み岩壁に彫りし仏  
いにしえ人は心熱かり

九十九折りに三十三仏据え置きし  
いにしえ人は心熱かり



一本の鉛筆

井俣初枝

「一本の鉛筆」うたう反戦歌  
おもき言葉外は雪降り

花王という徳をもちたり牡丹の  
咲ききわまりて人寄せつけず

身構えもゆるみ艶よき寒椿  
春待つ心一瓶に挿す

それぞれの奮りの色をもちて咲き  
紅ほのかなり白き牡丹

長き雨晴れて久しき田の中に  
巨き光と風をのみ込む



俳句

四月八日友逝く

本田村人

婿殿の表札ならび五月晴れ

屋敷林梅花に仕立て七十年

春昼や猫のものぐさ主ゆずり

河辺歩岐の医者看板走り梅雨

せめてもの慰め花の八日逝く



花の城

寛明代

山里の花の遅速や谷戸暮し

花に明け花にくれゆく城址かな

鶯の声はれやかに里日和

春眠の誘ふうつつの心地よき

紅蓮の色の深きに奮りなく



十六夜桜

渡邊千恵

宵闇の十六夜桜匂いけり

俯ける寒緋桜の紅の色

未だ見ず兼六園の菊桜

通り抜く花のアーチに鬱金色

薄墨の花散り初むる卯月かな



平成20年度

事業報告書

4月8日(火) 9(水) 平成20年度宿泊研修(参加者33名)

探訪地: 第1日松江市内の観光(小泉八雲記念館、武家屋敷、松江城など: 観光ガイド利用を依頼) : 玉造温泉泊。第2日出雲大社参拝・拝観、古代出雲歴史博物館、足立美術館見学(横山大観の魅力展、近代日本画コレクション展、「日本のトップに選ばれている庭園で有名」)

20日(金) 「文化財やまと」編集委員会

原稿依頼について

23日(水) 第1回執行部会(新年度への取り組み)

5月13日(火) 県文化財保護協会理事会

15日(木) 第1回役員会

平成19年度会務・決算報告について、平成20年度事業計画・予算案について、平成20年度総会について、会員拡大について、会費徴収について

6月6日(金) 郡上市文化財保護協議会第1回理事会

10日(火) 県文化財保護協会総会

14日(土) 平成20年度総会

①平成19年度会務・決算報告

②平成20年度事業・予算の承認

会報「文化財やまと」発刊(発行部数300部)

講話: 日置敏明市長: 地域再生を目指した「郡上学」の構築を

7月5日(土) 第2回執行部会

10日(木) 第2回役員会

27日(日) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃

8月7日(木) 七日祭・新能

9月19日(金) 研修部会(秋の日帰り研修について)

10月2日(木) 3日(金)

郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」(参加者1名)

5日(土) 第3回執行部会

10日(土) 第3回役員会

12月19日(金) 市内文化財探訪(美並町: 郡上市内未公開円空仏展と「鶴縁起の舞」)

12月22日(金) 第4回執行部会

2月14日(土) 第4回役員会、事業・会計中間報告、役員選考委員選出、懇親会その他

3月16日(金) 役員会(平成21年度春季1泊研修について、役員選考委員報告、その他)

27日(金) 第2回 郡上市文化財保護協議会理事会

平成21年度

事業計画(案)

4月9日(木) 10(金) 平成21年度宿泊研修(参加者23名)

探訪地: 第1日四国霊場(1番霊山寺、2番極楽寺、17番井戸寺)、鳴門市ドイツ館、阿波踊り会館(徳島グランドホテル泊) 第2日藍染工藝館、阿波十郎兵衛屋敷(阿波人形浄瑠璃鑑賞)、鳴門公園、渦の道海上散歩。

20日(月) 「文化財やまと」編集委員会

原稿依頼について

5月7日(木) 第1回執行部会(新年度への取り組み)

14日(木) 第1回役員会

平成20年度会務・決算報告について、平成21年度事業計画・予算案について、平成21年度総会について、会員拡大について、会費徴収について

6月9日(火) 15日(月) 県文化財保護協会総会(於: 岐阜総合庁舎)

平成21年度総会

①平成20年度会務・決算報告

②役員改選

③平成21年度事業・予算の承認

会報「文化財やまと」発刊(発行部数350部)

講話: 大和町文化財散歩 山田眞人氏

7月3日(金) 郡上市文化財保護協議会上期1泊研修(北陸方面)

10日(金) 第2回執行部会

18日(木) 第2回役員会

8月7日(火) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃

8月18日(火) 七日祭・新能

9月18日(金) 郡上市文化財保護協議会研修会(担当: 明宝文化財保護協会)

29日(火) 30日(水) 研修部会(秋の日帰り研修について)

郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」上越方面

10月9日(金) 第3回執行部会

①平成21年度秋季日帰り研修の計画・実施について

②その他

第3回執行部会

12月11日(金) 第4回役員会、事業・会計中間報告、懇親会

2月10日(土) 研修部会(平成22年度春季1泊研修計画)

3月8日(月) 役員会(平成22年度春季1泊研修について)

以下未定 平成21年度秋季日帰り研修 郡上市文化財保護協議会第2回理事会









森下正則 八八一三四一三  
佐尾チドリ(理事) 八八一三五四四  
■島  
森藤雅毅(理事) 八八一二六八四  
山田長次 八八一三六四八  
田中篤 八八一二七九二  
奥田昌明 八八一二五二〇  
奥田清子 八八一二五二〇  
奥田清子(理事) 八八一三五六四  
雉野尚子(理事) 八八一三五六四  
吉田勝恵 八八一四三二七  
遠藤利雄 八八一三五二六  
本川喜代士(書記) 八八一三八三三  
本川清子 八八一三八三三

◆◆◆ 平成20年度 決算報告書 ◆◆◆

◆◆◆ 平成21年度 予算書 ◆◆◆

(収入の部) (単位:円)

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	138,045	
会費	1,647,875	
会員会費	244,000	正会員2,000円×114名 家族会員1,000円×16名
特別会費	1,403,875	宿泊研修30,000円×33名 一日研修10,000円×39名 役員研修費23,875円
助成金	81,000	郡上市
寄付金	1,900	
雑収入	1,953	預金利息(定期含む)
合計	1,870,773	

(収入の部) (単位:円)

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	157,692	
会費	1,185,000	
会員会費	244,000	正会員2,000円×114名 家族会員1,000円×16名
特別会費	941,000	一日研修300,000円(40名)、 宿泊研修621,000円(23名) 役員研修費20,000円
助成金	81,000	郡上市(予)
雑収入	308	貯金利息 他
合計	1,424,000	

(支出の部) (単位:円)

項目	決算額	摘要
会議費	19,773	
総会費	9,000	
会議費	10,773	総会費6,048 部屋代4,725
事業費	1,547,962	
特別研修費	1,467,182	宿泊研修 33名参加 一日研修 39名参加 役員研修費
会報発行費	48,300	300部
事業活動費	32,480	奉仕作業お茶等16,000 燃料代7,000・傷害保険8,000 七日祭り御神酒料1,480
事務局費	35,346	
消耗品費	6,950	1日研修旅行写真代4,550 他
通信費	12,346	連絡用ハガキ 他
その他	16,050	土松家生花一封13,000 史料送付料3,050
会費(県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
積み立て金	60,000	重要出版物準備
合計	1,713,081	

(支出の部) (単位:円)

項目	予算額	摘要
会議費	50,000	
総会費	30,000	講師謝礼、茶 他
会議費	20,000	役員会茶 他
事業費	1,185,300	
特別研修費	1,047,300	一日研修・宿泊研修、役員研修
会報発行費	70,000	350部
事業活動費	68,000	奉仕作業燃料、お茶、七日祭り御神酒代 他
事務局費	25,000	
消耗品費	10,000	印刷関係費
通信費	15,000	通信用ハガキ 他
会費(県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
予備費	53,700	
積立金	60,000	重要出版物準備
合計	1,424,000	

定期預金	額	面	備考
定期合計額	719,000		

収入 1,870,773 - 支出 1,713,081 = 157,692円  
(157,692円は次年度へ繰り越し)

平成20年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されてきました。

平成21年5月14日

監事 田口勇次



島崎増造



編集後記

◇越後の戦国武将上杉謙信の家臣で知将の誉れ高い直江兼続のテレビドラマが人気である。

天の時、地の利、人の和、すなわち天地人の三つが備わった時、人は大きく羽ばたくことができるという。

兼続がらみの歴史小説も数冊読んでみた。私のなかで無名であった人間の生き様が、作家の脚色を通して伝わってきた。若くして家老になり、三〇万石の知行を得ていたその実力は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康達をも警戒させたという。ひるがえってわが郡上藩は上杉が家康により敗れ、三万石に減少された兼続の所領と大差ない小藩である。しかし小藩であっても、百万石の大名にひけを取らない歴史は存在する。

◇大和町に住み、遠く山田庄に思いを馳せるとき、その思いを脚色してくれる遺跡や遺物は限りなく身近に隠れている。物欲中心の生活の中で、心を耕すきっかけとして、郷土の歴史に関心を持ちたいと思う。

(ま)